

関東同窓会総会の報告

上原 昇 (2組)

今年の6月は梅雨時とは思えない連日の猛暑が続いています。

6月28日(土)の昼どき、吹き出る汗を拭きながら、第64回関東同窓会総会に出席してきました。会場はいつもの如水会館(千代田区一ツ橋)です。

今回の出席は昨年より20名ほど多い190名で、最年長は53期(89歳)、最若手123期(大学生)、その年令差70年とのことでした。

今年の総会の実行委員長は我々より一回り若い77期の皆さんで、31名の同期参加がありました。

65期の出席は筆者の他に、原田義則君(3組)、丸山暢久君(4組)の3名でした。

第1部講演会では中村幸夫さん(77期、医師で理研名誉研究員)による『細胞培養の歴史と医学医療への貢献』という演題の話を聞きました。

同期にもナカムラユキオという同姓同名の人がいますが、「幸男」で少し違います。講演が終わって司会者から「質問のある人は・・・」と呼びかけがありますが、中味が難しくすぎて質問できない雰囲気のため、同期の原田君から専門的な質問がありました。

第2部の総会では、冒頭、来賓として出席の同窓会本部金子元昭理事長(68期)の挨拶があり、24年度活動報告、25年度活動計画の承認が続き、新幹事長に金井一正さん(76期、前副幹事長)を選出しました。

元幹事長で前副会長の関博明さん(72期)と前幹事長の平林一央さん(75期)が顧問に委嘱されました。関さん、平林さん、ご苦労様でした。金井さん、3年間よろしくお願いします。



写真1 講演会の様子

第3部のアトラクションは会場を隣に移して、演奏家(ギタリスト)の須藤英樹さん(77期)と小諸在住の歌姫・天音ともさんのコラボによるJ-POP(昭和の懐かしのメロディ特集)演奏を約1時間、楽しみました。

写真2 演奏会の様子 ⇒

第4部懇親会は年代(期)ごとのテーブルに集まり、まずは上田高校学校長の宮下美和先生(84期)の母校の近況報告に耳を傾けました。

関西同窓会の荻原靖会長(74期)の乾杯の発声で、お待ちかね開宴となりました。

筆者にとっては、同窓会役員時代の懐かしい仲間との再会で楽しいひとときを過ごすことができました。





12時から始まった総会は、17時前に次回実行委員長 78 期代表の挨拶があり、5時間にわたるロングランの幕を閉めました。

写真 3 懇親会の様子

右から丸山、二人おいて上原、原田 ⇒

【原田追記】

中村幸夫さんとは仕事上の直接の繋がりは無かったのですが、筑波大学の医学部門での同僚であった時期もあり、大学での講演会に出席したこともありました。尤も、その時は氏が上田高校の卒業生であることは知りませんでした。また氏の研究室の出身学生が私の娘と山極勝三郎先生の流れをくむ研究室で同僚だったこともあったりしました。



その後、氏は私の師でもある先生が創設した理研の筑波事業所（ライフサイエンス筑波研究センター）に移り、移植医療・再生医療の推進のための細胞培養プロセスの研究開発を進めると共に、私の大学時代の同期の後任としてバイオリソースセンターのマネジメントにも従事されました。また、筑波大学の教員も兼任され引き続き最先端の研究にずっと従事されて来ました。

今回の講演は「細胞の発見」から始まり、「細胞培養技術を用いた」体外受精・遺伝子欠陥に起因する難病治療のための移植医療、iPS 細胞の利用や再生医療までの流れを分かり易く解説してくれました。専門に近い私には、整然とした論理で構築された非常に素晴らしい講演だと思ったのですが、大多数の聴衆にはちょっと難しかったようです。ただ、依然はやや否定的に捉えられていた「体外受精」も、「現在では新生児の 1/8 は体外受精で誕生している」との話を聞いて、今後ますます進むであろう個別化医療で、細胞培養技術が重要なキー技術なるであろうことを確信しました。素晴らしい講演だったと思います。

(写真 1、2、3 は小山勇副幹事長提供)

(2025 年 6 月 29 日記)

以上